

会 議 録

会議の名称	第1回小金井平和の日記念行事検討委員会
事務局	企画財政部広報秘書課
開催日時	平成27年7月6日午前10時00分から午前10時50分まで
開催場所	小金井市役所第二庁舎6階601会議室
出席者	委員：根岸座長、林副座長、石田委員、川上委員、河野委員、西田委員 事務局：稲葉市長、天野広報秘書課長、吉田広聴係長
傍聴の可否	可
傍聴者数	0人
傍聴不可等の理由等	
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 協力依頼（依頼状交付）</li> <li>3 市長挨拶</li> <li>4 委員紹介</li> <li>5 事務局紹介</li> <li>6 座長・副座長の互選について</li> <li>7 議題 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 検討委員会の進め方</li> <li>(2) 記念行事について</li> <li>(3) 第2回委員会の開催日について</li> </ol> </li> <li>8 閉会</li> </ol>
発言内容・ 発言者名 (主な発言 要旨等)	<p>発言内容</p> <p>別紙のとおり</p>

提出資料	<ol style="list-style-type: none"><li>1 小金井平和の日記念行事検討委員会設置要綱</li><li>2 小金井平和の日記念行事検討委員会委員名簿</li><li>3 意見・提案シート</li><li>4 会議資料1「小金井市平和施策検討委員会が出された意見のまとめ」</li><li>5 会議資料2「小金井平和の日制定記念式典アンケート集計結果」</li><li>6 会議資料3「平和の日制定自治体における平和の日記念行事等一覧」</li><li>7 小金井平和の日制定記念式典記念冊子</li><li>8 平和作文集</li></ol>
------	--

【天野課長】 では、市長の稲葉より、皆様にご挨拶を申し上げます。市長、お願いいたします。

【稲葉市長】 皆さん、おはようございます。ただいま依頼状を交付させていただきました。よろしくお願いいたします。

本日は大変お忙しいところ、平和の日記念事業検討委員会にご出席を賜りまして、まことにありがとうございます。

本市では昨年12月に小金井平和の日条例を制定しました。東京大空襲のあった3月10日を小金井平和の日と定め、この日を中心として、平和意識の高揚を図るための記念行事を実施するよう定めたものであります。平和の日を制定するということは数年前から考えていたことですが、戦争を体験した方から直接お話をお聞きする機会も少なくなり、戦争の悲惨な記憶が風化されてしまうことが懸念されることから、戦後70年の節目を迎えるに当たり、思い切って提案し、制定したものでございます。

昨年度、平和の日を検討するに当たっては、根岸委員には学識経験者という立場から座長として大変ご尽力をいただきました。林委員には副座長を務めていただき、また戦争体験者として貴重なご意見をいただきました。この場をお借りして、改めて御礼を申し上げます。

今回はお二人をはじめ、公募委員の方々、職員2名の6人の委員の方々にお集まりをいただきました。皆さんには、この条例に基づき、未来に平和を引き継いでいくために実施する記念行事の内容を検討していただきます。市民の皆さんに、家庭でも学校でも地域でも、命の尊さについて、そして平和について、改めて考える機会となるような行事を実施できるようご協力のほどをお願いいたします。

最後に、関連しまして、世界連邦宣言自治体協議会主催による講演会についてご案内をさせていただきます。本市では昭和35年10月に世界連邦の趣旨に賛同して、永久の平和都市たることを称するため、世界連邦平和都市宣言を行っております。世界連邦宣言自治体協議会とは、このような宣言を行った自治体の連携を図るために組織された団体でありまして、全国で60の自治体が加盟しております。今年度は、この協議会の総会が小金井市で行われることとなり、あわせて一般市民の方を対象とした講演が開催されることになっております。現在、上村司外務省中東アフリカ局長が小金井に住んでいらっしゃるという縁から、この方を講師にお迎えして、中東情勢から見る世界平和というテーマでお話をいただくことになっております。

7月10日午後3時30分から小金井宮地楽器ホール、市民交流センターの小ホールで開催をすることになっております。現職の中東アフリカ局長から、生の体験に基づくお話を聞くことができる大変貴重な機会でもありますので、お時間がありましたら、ぜひそちらにも足を運んでいただきたいと思いますと思っております。

小金井市の平和施策の推進のため、今後ともご協力をお願いさせていただき、冒頭の私の挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

【天野課長】 次に委員の皆様の紹介に移りたいと思います。

ここからは恐縮ですが、座って進行させていただきます。

順番にお名前を申し上げますので、お一人ずつ自己紹介をお願いいたします。

まず、公募委員の石田委員からお願いいたします。

【石田委員】 おはようございます。石田いく子と申します。今は主婦でございまして、私が本日ここにいていいのかなとちょっと心配になっておりますけれども、ご指導のほど、よろしくお願いいたします。

【稲葉市長】 保護司を長くお務めいただきました。何年間ぐらいやっていたいただきました？

【石田委員】 平成2年から24年の8月まで22年間。もう定年退職いたしました。

【稲葉市長】 お世話になりました、ありがとうございます。

【石田委員】 よろしく願いいたします。

【天野課長】 ありがとうございます。

続きまして、同じく公募委員の川上委員、お願いいたします。

【川上委員】 おはようございます。初めまして。川上でございます。私は、ちょうど1年前、昨年、平成24年6月末まで民間の企業に50年余り、これも普通のサラリーマンとして勤めました。定年、終わりましたから十四、五年、企業のほうに残りまして、ちょっと話が長くなって恐縮なんです、建築関係の企業だったんですけれども、業界の有志の皆さんが、安心・安全ということで、神戸の地震から始まって地震が非常に多い、それから姉歯問題、つい近くでは笹子トンネルの落盤事故、こういうことがあるだろう、あるいはありましたということから公益の協会をつくりまして、その協会のほうに、企業から二十数年、いわゆる法人化になるまでから含めると、二十四、五年、企業のほうから代表として送り込まれて、その仕事が終わりましたので定年後も会社に残りまして、社員、あるいは役員として従事しました。

今回応募させていただいたのは、公益のほうで培いました経験を、こういうこと、めでたい、あるいは何かの節々で市民の皆さんと一緒にご協力が、少しでもできればということで応募させていただきました。少しでもお役に立てればと、これを肝に銘じて、民間の企業で非常に露骨な商売という形で若いときから来たんですけれども、この公益に携わってから、人間の安心・安全、それから平等性とか透明性、そういうことを、この残りの人生、何年かわかりませんが、将来の皆さん方に、若い人たちに特に理解をいただいて、住みよい小金井が、何かこういうことを通じてできればいいんじゃないかなと、非常にささやかな経験ではありますけれども、そういうことに少しでもお役に立てればということで、今ちょうど1年なんです、町会の、林先生、私は陰ながら存じ上げているんですけれども、近くなんです、いわゆる火の用心の、防災のご協力とか少しずつ参加をさせていただいてやっている状況です。何もできないかもしれませんが、皆様のご指導で少しでもお役に立てればということで、よろしくお願いいたします。

【天野課長】 ありがとうございます。

続きまして、同じく公募委員の林委員、お願いいたします。

【林委員】 おはようございます。ご紹介いただきました林でございます。中町の三丁目に住んでおりまして、私が4歳のとき、昭和10年に小金井に参りました。そして、結婚して2年間ほど武蔵野市に住んだことがあります、一貫して小金井に住んでまいりました。これだけ住むと土地っ子になるのかなと思っていましたけれども、なかなか小金井は難しいということで、いまだにまだ来たり者という存在でなっておりますが、来たり者は来たり者の存在感を示さなきゃ、圧倒的にそういう方が多いわけですから、現在、小金井市に住み、小金井市に奉職して、その後退職して、市議会議員を4期16年させていただきました。今、いろいろまた公務だの地域のことだの、いろんなイベントに関わらせていただいているという、忙しい思いをしてやっておりますけれども、地域の発展のために少しでもお役に立て

ばと思って頑張っております。

稲葉市長とは議員では同期でした。あのころから市長になる人間だなと、実は思っていました。よくやっていて、今回の、この平和、彼の政治的な選出背景を考えると、大変勇気があって立派だなと思いました。彼は引き揚げをしてきたという話を聞いていたので、その間のいろいろな苦労話からやっぱり平和に関する思いは、この人は強いんだなと思っていましたけれども、この前の平和の日の策定で終わったかなと思っていましたら、また今回こういうことがありまして、林さん、ああいうことがあったんだからやっぱり応募すべきじゃないかなといろいろな人から言われまして応募させていただきました。幸い選考に合格させていただいて、何ができるかわかりませんが、最善を尽くして、平和の尊さというものを、これからの子、孫の世代に継いでいきたいという情熱だけは誰にも負けないと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

【天野課長】 ありがとうございます。次に学識経験者委員の根岸委員、お願いいたします。

【根岸委員】 根岸でございます。よろしくお願い申し上げます。

私は戦後、昭和26年生まれでして、戦争の体験はございません。また、清瀬に住んでおりました、小金井に住んだことはないんです。今、國學院大学で江戸時代を教えておりました、それも近現代ではないのですが、小金井につきましては、もう40年近く、小金井の古文書の調査などをさせていただきまして、毎年のように歩き回ったり、あるいは文化財センターで市の古文書の調査をさせていただいたりして、現在では都市史の編纂のお手伝いをしております。そんなこともありまして、前回から平和の日の施策のときからお手伝いをするようになったわけです。ただ、私は戦後生まれですけれども、ちょうど戦争が終わったばかりのときに生まれて、親の世代がもう戦争は嫌だということを実感しながら、それをずっと頭にたたきつけられながら小学校時代を送ったということもありまして、やはり、今、林先生がおっしゃった平和の尊さというものはずっと原体験として頭に突きつけられておりましたし、また親たちからさまざまな体験を聞いておりました、自分が体験しなくてもそのような思いをつなげていくというのが、歴史をやっているものの1つの使命ではないかと思っております、そういう意味で、ぜひこの委員会にご協力させていただければと思っております。よろしくお願い申し上げます。

【天野課長】 ありがとうございます。次に市職員委員の河野より、お願いいたします。

【河野委員】 企画財政部長の河野と申します。よろしくお願い申し上げます。

先日、97歳の小金井市民の方から戦争のお話を聞く機会がありました。戦場では隣の方が砲弾や鉄砲によって亡くなっていく、まさにその場で隣にいる方ということで、生死が紙一重であることとか自分の力で生きているというより生かされているんじゃないかというのを感じたというお話と、その後パプアニューギニアで終戦を迎えたということで捕虜になって、現地の方々や、そのときのイギリス軍だったというお話なんですけれども、非常に親切で、本来だったら怒られてしまうのに食料を分けてくれたりとか、軍も非常に丁寧だったなんてお話を伺う機会がありました。教科書で学んだばかりで、実際にそういうお話を聞く機会がなかなかなかったんですけれども、体験に基づくお話で、リアルな現実だなと感じたのと、やはりこの話は受け継いでいかなければならないというのを強く思ったところです。

これからどのような行事をやっていくのか検討を始めていくわけですが、いろいろよろしくお願いしたいと思います。

【天野課長】 ありがとうございます。同じく市職員委員の西田委員、お願いいたします。

す。

【西田委員】 教育委員会生涯学習部長をしております西田と申します。市史編纂につきましては、いろいろとお世話になりました。ありがとうございます。

私どもは戦争世代というところからちょっと離れたところにいるわけですが、父親につきましても非常に飢えた時代、戦争、昭和10年生まれでございますので、ちょうどそのころ、ひもじい思いをしたという話はよく聞きまして、いまだにすいとんですとか芋とかを見ると、こんなもの食えるかというような、どうも意識があるようございまして、私どもはそういうあれはないんですけれども、やはり戦争を体験した人間にとっては、そういう食料が一体どういう位置づけにあったのかということ、食べ盛り的时候に何を食べさせられていたかとか非常に痛切に記憶に残っているようございまして。また、私の妻のほうの祖父が戦艦「扶桑」に乗り込んでおりまして、たまたま盲腸にかかってしまって勤務を交代してくれということで交代をしたところで、その交代をした同期の方が戦死をされてしまったという体験も聞かされております。ほんとうに紙一重のところ生死があったというのが第二次世界大戦の実際に真っただ中にいた方々の体験であったということをいろいろ聞かされておまして、ほんとうにこれをどういうふうに伝えていけば、今の世の中の方々に、そんな時代があって、こういうことは繰り返しちゃいけないんだということが伝えられるのかということを考えていければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

【天野課長】 ありがとうございます。次に事務局の紹介をさせていただきます。

広報秘書課広聴係長の吉田でございます。

【吉田係長】 吉田でございます。よろしくお願いいたします。

【天野課長】 最後に、私、広報秘書課長の天野でございます。よろしくお願いいたします。

では、議事に入る前に2点確認をさせていただきます。1点目は議事録の作成方法についてでございます。1の会議につきましては、小金井市市民参加条例第6条の規定によりまして、原則公開となっております。また同条例施行規則第5条には会議録の作成方法として、発言者及び発言内容をそのまま記録する全文記録、発言者の発言内容ごとに要点を記録する要点記録、会議内容の要点のみを記録する要点記録、この3つの中から選択することと規定をされております。

事務局といたしましては、行事内容を決定するに当たりまして、検討した経過を簡潔に記録として残すため、発言者の発言内容ごとに要点を記録する要点記録としたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

【天野課長】 それでは、そのようにさせていただきます。

恐れ入りますが、議事録作成の都合上、ご発言の前にはお名前をおっしゃっていただくよう、よろしくお願いいたします。

2点目は傍聴者の方からの意見の取り扱いでございます。公開している市の会議、すなわち傍聴が可能な会議のうち、幾つかの会議では意見提案シートを使用し、傍聴者の意見を取り入れているところもあります。意見提案シートの取り扱いにつきましては、市として統一された規定等はなく、各委員会等の判断に委ねられております。

事務局といたしましては、意見をどの程度参考にするかということにつきましては、その都度個別に判断が必要になると思っておりますが、意見提案シートを配付したいと考えておりますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

【天野課長】 それでは、そのようにさせていただきます。

それでは、次第に従いまして、座長の互選を行いたいと思います。座長が決まるまでの間、市職員委員の河野委員に仮の座長を務めていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

【河野仮座長】 それでは、座長選出までの間、私が仮の座長を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

直ちに議事に入ります。座長につきましては、小金井平和の日記念行事検討委員会設置要綱第5条の規定によりまして、委員の中から互選するとさせていただきます。どなたか立候補、またはご推薦はございますでしょうか。

はい、林委員。

【林委員】 林です。前回、小金井市平和施策検討委員会で座長をされた根岸委員がいらっしゃるから、引き続きその経緯がよくわかっていらっしゃる方にやっていただいたほうがいいんじゃないかと思いますので、私は学識経験でもある根岸委員にお願いしたらいかがかと提案をさせていただきます。

【河野仮座長】 ただいま林委員から、前回からの経緯、また学識経験者でございますことから根岸委員に座長をお願いしたいとのご提案がございました。根岸委員、いかがでしょうか。

【根岸委員】 ほかの先生方のご賛同をいただければ、不十分ですが、また私が務めさせていただきますと存じます。

【河野仮座長】 委員の皆様、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

【根岸委員】 それでは、務めさせていただきます。

【河野仮座長】 ありがとうございます。ご本人から、また委員の皆様方からご了承いただいておりますので、根岸委員に座長をお願いしたいと思います。

私はこれで座長の任を解かせていただき、これより先は根岸委員に議事の進行をお願いしたいと思います。

根岸委員、座長席のほうにお願いできますでしょうか。

【根岸座長】 ただいま皆様のご総意をいただきまして座長を務めさせていただきますが、先ほど申しましたように、私は市民でもなく、いろいろな形で小金井とご縁をいただいているということでもありますので、ぜひ先生方、委員の方々のご協力をいただきまして、有意義な検討委員会にしていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

それでは、私のほうで議事を進めさせていただきますが、続きまして副座長の互選を行いたいと思います。副座長につきましては、座長同様、小金井平和の日記念行事検討委員会の設置要綱第5条の2に座長及び副座長は委員の中から互選するとさせていただきますので、どなたか立候補、あるいはご推薦、いかがでしょうか。

はい。

【石田委員】 石田でございます。前回の経験もお持ちですし、林さんにやっていただければ、ありがたいと思いますけれども、いかがでしょうか。

【根岸座長】 今、林委員にお願いしたいというお話をいただきましたが、林先生、いかがでしょうか。

【林委員】 私でよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

【林委員】 皆さん方にご異存がなければ、お断りするのも角が立つと思いますので引き

受けさせていただきます。一生懸命座長の補佐に努めますので、よろしくお願いいたします。

【根岸座長】 お願いいたします。林先生には、前回は非常に助けられまして、ほんとうは林委員に座長をやっていた方がいいのではないかと思いますけれども、ぜひよろしくお願いいたします。

では、林先生、こちらのほうにお願いします。

それでは、会議を進めていきます。表紙にありますように、議題7のところですが、(1) 検討委員会の進め方となっております。では、まず事務局から説明をお願いいたします。

【天野課長】 では、事務局よりご説明いたします。

本委員会は昨年12月に制定いたしました小金井平和の日条例に基づき、平和意識の高揚を図るために実施する記念行事の内容を検討するために設置した委員会でございます。今後、毎年3月10日を中心とする日に実施する記念行事の具体的な内容につきまして、ご協議いただきたいと思います。

本日を含めまして、年4回の開催を予定しております。

記念行事を3月中旬に実施することから準備等に要する期間を考慮いたしまして、10月、あるいは遅くとも年内には結論を出したいと考えてございます。そこから逆算いたしますと、およその目安といたしまして、7月中にあと1回、8月に1回、また9月、あるいは10月に1回程度開催いたしまして、記念行事の内容を決定したいと考えております。

協議の参考に本日幾つかの資料を配付してございますが、このほかにも多世代の方のご意見を参考とするため、7月15日及び7月22日に開催する小中学生を対象とした市民と市長のふれあいトークで出された意見につきましても、次回以降、資料として配付する予定でございます。それらも参考にいただきながら、皆様にご議論いただき、条例の趣旨である戦争の記憶を風化させずに後世に伝え、未来に平和を引き継いでいけるような行事を実施していきたいと考えておりますので、よろしくご協議のほどお願いいたします。

【根岸座長】 ありがとうございます。今、事務局の説明が終わりまして、本日を含め年4回の開催を予定。記念行事は3月中旬に実施することから、およそ4回といいますと、7月中にあと1回、8月に1回、9月から10月に1回開催して、記念行事の内容を決定したいということ、また、協議の参考に、7月15日及び22日に小中学生を対象とした市民と市長のふれあいトークがありますので、それに出された意見につきましても、次回以降資料として使いたいというようなこと、そのようなことが今説明になっておりましたけれども、これにつきまして、特に委員会の進め方につきまして、ご意見、ご質問はいかがでしょうか。今のような進め方でよろしいでしょうか。

それでは、そのような形で進めさせていただくことにしたいと思います。

では、次に議題2、記念行事についてということで、また事務局から説明をお願いいたします。

【天野課長】 では、資料についてご説明いたします。

まず、会議資料1、小金井市平和施策委員会が出された意見のまとめでございます。こちらは昨年度小金井平和の日を制定する際に設置した小金井市平和施策検討委員会の中で、記念行事の内容について検討した際に出された意見を取りまとめたものでございます。

次に会議資料2、小金井平和の日制定記念式典アンケート集計結果でございます。こちらは、今年3月に実施いたしました小金井平和の日記念式典の参加者からいただいたアンケート結果をまとめたものでございます。設問の3が本件に係る調査項目となります。また、設問4の自由意見の中にも記念行事の内容に触れた意見がございますので、参考にしてい

ただきたいと思います。

最後に、会議資料3、平和の日制定自治体における平和の日記念行事等一覧でございます。こちらは、平和の日を条例等で定めている自治体が平成26年度に実施した記念行事等の具体例を表にまとめたものでございます。資料の説明は以上でございます。

【根岸座長】 事務局の説明が終わりました。これから具体的な協議に入るんですけども、第1回目でございますので、資料を読んですぐに意見を出すということも難しいかと思えます。今、ざっと見ていただきまして、何かあればご意見をいただくということにいたしたく思いますが、ただ7月中にもう一回委員会を開催したいということ、また次回までに小中学生の意見も集約するということがございますので、基本的には本日はこの資料を次回までに見ていただいて、それでそれぞれご意見をいただき、次回新たに提出される小中学生の意見も踏まえて協議をするというようなことにしてはいかがかと存じますが、ただ、ざっと見た中で何か質問なり、あるいはこのところ、もう少し丁寧にというようなお話があれば、ここで承りたいと思いますが、いかがでしょうか。

【林副座長】 林ですが、資料1から3まで配られておるんですが、事務局のほうで、この中で特に急遽加えて説明しておきたいところはありませんか。もしあったら教えていただきたい。

【天野課長】 林委員のほうから、この資料について特段何かあれば説明をということでございます。この資料について、特にということはないんですけども、条例の趣旨からいたしますと、戦争の記憶を風化させずに後世に伝えていくということがございます。市民の皆様は改めて平和について考えていただく機会としたいというのがございますので、できるだけ多くの方に参加していただけるようなもの、また、戦争の記憶を引き継いでいけるような、例えば直接体験された方の講演ですとか、あるいは委員会の意見にもありますけれども、当時のことを子どもたちに調べていただいて、発表していただくですとかいった皆さんに改めて考えていただけるような行事を、こういった出された意見も参考にしながら検討していただければと思っております。

【根岸座長】 今の事務局の説明について、林先生。

【林副座長】 一度きちんと時間をとって目を通してみないと何とも言えないところがありますから。

【根岸座長】 会議資料1のところ、小金井の前の平和施策委員会で委員の方々から出された意見のまとめがありまして、本年3月に第1回の平和の日の記念行事を行って、そのときに黒井先生のお話をいただいたり。

【天野課長】 事務局から。今、座長からお話しいただきました平和の日記念式典の当日の記念冊子と、そのときに行った作文コンクールでご応募いただいた作文の優秀作品7点をまとめた作文集がございますので、こちらも参考に配付させていただきます。

【根岸座長】 今、それをお願いしようと思っていたんですけども。

【天野課長】 あくまで補足でございますが、こちらの資料のほうは参考にお配りしているものでございますので、ここから選ぶという形ではなくて、このほかにも何か委員の皆様からご意見があれば、またご議論いただきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

【根岸座長】 それから、会議資料2は、記念式典のアンケート、参加者56名で36枚のアンケートが収集され、無回答の方もありますが、わりと40代ぐらいが多いところを考えますと、やはり戦争を体験していない方々にどう引き継いでいくか、それから、40代ぐらいの方を、次の時代にどう引き継いでもらっていくかを考えていくのが、1つは必要にな

るんじゃないかと思ひまして、これから風化していき、高齢者の方々も少なくなっていく、あと、何年か後には体験された人がいなくなる中で、それを今後どういうふうに取り継いでいくかを検討していくのが大きな課題になることは、会議資料2からも検討できますし、さまざまな感想をいただいているというのは貴重だろうと思ひます。

会議資料3としまして、各自治体において平和の日の記念行事をどんなことをやっているか、こうした中で、もちろん取り継いでいくというようなことはそれぞれ考えておられるようですけれども、やはり若い人たちにどうやってそれを取り継いでいけるのかという、その有効的な手段が何なのかというのが大きな課題になっていくと思ひますし、そういう意味で、ここで行われているというのは、非常に参考になっていると思ひます。

これを見ていると、小金井だけが作文コンクールとか、小中学生を対象としたことを行っていて、もちろん小中学生を対象としていないというわけではありませんけれども、小中学生に考えさせるというようなことをきちんと行っているのは、この一覧の11の中では、小金井の作文コンクールだけではないかというような気もするんですけれども、もっと、さらに小中学生にそういう平和を大事にしようという意識を持ってもらうのはどうすればいいのかというのが、この大きな課題になるのではないかと思ひます。これをぱっと拝見したときにそんなことを感じました。

今後もう少しきちんと検討し、それぞれの体験ですとか、ご自身のさまざまなご経験というものもあるかと思うんですけれども、そういうものをここで提案しながら、さらにいい形にしていければと思ひておりますけれども、今申しましたように、このようなものを見て、また、市長とふれあいトークという形で、小中学生の意見も踏まえて、改めて次回協議するというので、いかがでしょうか。

**【川上委員】** ちょっと質問ですけど、川上ですけれども、第1回のことということで、先ほどから伺っていて、開催されたと。無関心で、この席に参加しないで大変恐縮、申しわけなかったんですけれども、そのときにやはりお骨折りいただいた、ご尽力いただいた方をこの委員会に、座長と副座長以外に参加しないというのは何か理由があるのでしょうか。

**【根岸座長】** 一応公募ということもあります。

**【川上委員】** 何か趣旨が違うということでしょうか。

**【天野課長】** ええ、そうなんですけれども、はい。

**【川上委員】** そうですか。それから、座長が言われた、もう1つ、小金井の11番目には、小中学生の作文コンクールということで、私の受け方が間違っているかどうかわかりませんが、ちょっと物足りないというか、ほんとに戦争ということをテーマに、大前提に平和というところに結びつけるのであればというようなことをおっしゃっているのかなと受けるところがあったんです。

そうしますと、私も仕事の関係で海外、欧米から、東南アジアから、嫌になっちゃうぐらい行って、やはり日本人であるということから、私もちょっとそういうのにはしつこく関心がありまして、ビジネスを通してそういう人たちと話をし、それぞれの国で、日本人がどうだというようなことを、現に仲よくなりますとリアルな話をしてもらったり、しかし、ほんとにいろんなことを勉強しているという人は、日本人の性質とか、そういうところまでよくわかっていただいている人もいる、表面的な人もいる。日本人も、先ほど西田さんのお話しもありましたように、実際に親を通して、非常に背広の上から背中かくようなことだというのと、リアルに感じた、それを将来の若い人たちに取り継ぐということ、どうしたらいいかもっと真剣に、座長がおっしゃるように、せっかく催し物をやるのであれば、市長さんがディスカッションを私たちとされるというのであれば、そこへプラスアルファでして

いただくと、小金井が光るような、誰もが気がつかないようなことでも、私は地味なことでも結構だと思うんですが、したらどうかかと。広島も行きまし、長崎にも行きまし、そういう人たちの姿だとか、そういうのをリアルに、早くに取り入れるなんていうのも1つの、もう皆さん生きての方が少なくなっていますし、というようなことを、何かの方法ですとか、戦争というのを前面に出すのであれば、もう少しそういうことを。

冒頭私がお挨拶のときに申し上げましたように、いわゆる平和というのは人間の幸せ、安全・安心だよと、自然災害を含めてというところを大きく考えて今日伺ったものですから、それだと私も何かのときに役に立てるかなと思ったんですけども、どうもお話を伺っていると、戦争、戦争ということであれば、座長が言われるようなところをポイントにもう少し強調してやられたらどうかと、すいません、失礼かもしれませんが、気がつきましたので。

【根岸座長】 とんでもありません。ありがとうございます。ぜひそういうようなご意見を、今後生かしていただければ。

【川上委員】 何か印象を、経験のない人にとというのはなかなか難しいと思うんですけど、何か心にとまって、それぞれの人たちがこれから成長していく過程で、そういうものがどこかに入っていくようなことが少しでもできればいいのかなと。私はものすごく経験、戦争孤児みたいなものですから、自分自身が持っていますので、よくわかりますけども。

【根岸座長】 ありがとうございます。ほかにご意見いかがでしょうか。

石田先生、何かお感じになったことで。

【石田委員】 私は林先生とちょうど同じぐらいの年で、経験しているといえはしているという世代なんですけれども、長崎へ参りまして、平和公園に行ったんですけど、そのときに修学旅行の高校生がいっぱい来ていたんですよ。みんな楽しそうにあの前で写真を撮っているんです、Vサインとかして。でも、あの子たちはどういう勉強をしてからここにやってきたのかなということをしごく感じたんです。北村西望さんの平和祈念像。どうでしょう、バスの中でガイドさんがある程度説明して、それでおりにきたのか。やっぱり親御さん世代は私たちよりももっと若い世代ですよ。ですから、おうちの中で聞くこともほんとに少なくなるでしょうし、ですから、伝えていくということをしごく、例えば修学旅行1つにしても、前に勉強していく、別の機会に勉強していくということをしせて、連れて行っていただきたいなど、しごく感じたんですけども、どうでしょうか、そういう勉強の機会になったらいいなど。私が実際に長崎に行っているときは、このお話はまだなかったものですから、たまたまそういうことを経験したものですから、今ちょっとそういうことを思っています。

【根岸座長】 ありがとうございます。ほかにご意見、いかがでしょうか。先生方から貴重なご意見いただいたと思いますし、今後の進め方についての非常に重要な提案もありましたけれども、そういうことを踏まえまして、この資料、またいただいた資料などを検討した上で次回の検討に臨むというようなことでよろしいでしょうか。

ありがとうございます。それでは、そのような形で進めていきたいと思っております。ほかにご覧いただけますか。よろしいでしょうか。

それでは、特にならなければ、時間もあまりかかってなかったんですけども、本日はこれまでとしまして、次回以降の予定も決めておければと思っております。特に次回の予定につきまして、事務局から何かあればお願いいたします。

【天野課長】 次第では第2回委員会の開催日についてとなっておりますが、皆様おそろいの際に決めておいたほうがよろしいかと思っておりますので、ここでもし決まるようであれば

第4回まで決めておきたいと思います。

まず第2回の開催日でございますが、今のところ、事務局で仮押さえをしておりますのが、7月30日木曜日、午前10時からとなっております。委員の皆様のご都合がよろしければそれで決定したいと考えておりますが、いかがでしょうか。

【根岸座長】 私は大丈夫ですが、先生方いかがでしょうか。よろしいですか。じゃあ、第2回目は7月30日の午前10時からということで、改めて開催通知は送っていただけますか。

【天野課長】 場所が確定した際にまた改めて開催通知を送らせていただきたいと思います。

【根岸座長】 次回以降について何かございますか。

【天野課長】 では、続きまして、8月の日程でございます。一応あらかじめ事務局で考えておりますのは、8月17日月曜日、こちらも同じく10時からを考えておりますが、いかがでしょうか。

【根岸座長】 8月17日、お盆明けですけれども、いかがでしょうか。先生方、よろしいですか。林先生。

【林副座長】 今のところ大丈夫そうです。

【根岸座長】 大丈夫ですか。そうですか。それでは、8月17日の午前10時からを3回目と。4回目については何かございますか。

【天野課長】 4回目、9月24日、同じく午前10時からを考えておりますが、いかがでしょうか。

【根岸座長】 9月24日、木曜日ですけれども、よろしいでしょうか。じゃあ、その形で、基本的に4回ということですので、2回目が7月30日、3回目が8月17日、4回目が9月24日、これまでに平和の日の基本行事をどのような形で有効なものにしていくか、あるいは後世に伝えていくかというようなことを検討できればと思っておりますけれども、よろしく願いいたします。

ほかに何かご意見とか、あるいは会議の進め方などについても何かございますか。

【林副座長】 林ですが、7月15日から2回にわたって、市民と市長のふれあいトークがあるというお話ですよ。そのときの話し合いの結果などが資料として多分送られてくることになるかなと思うんですが、できれば事前に配付がされて、認識を持った上で会議に出席できるように事務当局に伝えていただきたいと思いますけれども、どうでしょう。

【天野課長】 事務局です。15日、22日で、その次の委員会が30日でございますので、その間に集計がまとまり次第送らせていただきたいと思います。

【根岸座長】 よろしく申し上げます。ほかにいかがでしょうか。もしなければ、本日の議題を終了させていただきたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

【林副座長】 もう1回確認したいんですが、私が言ったのは7月のふれあいトークのことだけではなくて、資料を一般的に送る場合には事前に送るようにしてほしい、ご配慮いただきたい、そういう意味で申し上げました。

【天野課長】 はい、ありがとうございます。原則として、間に合えば、極力早目の段階で事前に送付させていただきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

【根岸座長】 ありがとうございます。ほかはよろしいでしょうか。

それでは、司会がどうもうまくいかなくてご迷惑をおかけいたしましたけれども、これで終了させていただきます。どうもありがとうございました。

【天野課長】 ありがとうございました。どうぞよろしく願いいたします。

【川上委員】 事務局さん、15日、22日というのは、我々は会場に入ることはい出来ないでしょうか。

【天野課長】 一応、対象は小学生と中学生にしているんですけども、委員会の委員として、参考人ということであれば。

【川上委員】 もし無理であれば結構ですけど。

【天野課長】 特段、別に大丈夫です。ただ、大人の人を対象としていないので、子供ばかりという状況ではございますけれども、それでももしよろしければ。

【川上委員】 はい、わかりました。

【天野課長】 出ても発言は控えていただくことになるかと思います。

【川上委員】 もちろんそれは、そういうことを考えているわけではありません。

【林副座長】 多分そうだろうと思ったので、まとめた記録を事前に送ってくれと頼んだのです。

【天野課長】 後から箇条書きにしたものを見るよりも、その場の雰囲気を知りたいということであれば。

【川上委員】 なかなか事務局さんもお忙しいし、大変だと思うんですけども、我々市民からしますと、そういうのを呼びかけ、ただ案内はあるんですけども、今、林先生がおっしゃるように、事前のPRというか、そういうのがどうしても、積極的に出ないとわからないというのが非常に多いような気がしてならないんですけども。勝手にあんたたち積極的にやりなさいよというのであれば、それはしょうがないんですけども、できるだけ、やっぱり盛り上げるためには、少しでもそういう形を、事務局は大変でしょうけど、とっていただく。どうしても公のことになりますと、そういうのは非常に大事だと思います。何でもそうですけれども、芸能の関係だとか、世に出ている人だとわっと皆さん関心を持つけれども、そうじゃないと、どうしても貧弱になっちゃうような気がするんです。小金井はそうじゃないかもしれませんが。どうぞよろしくお願いいたします。